

3

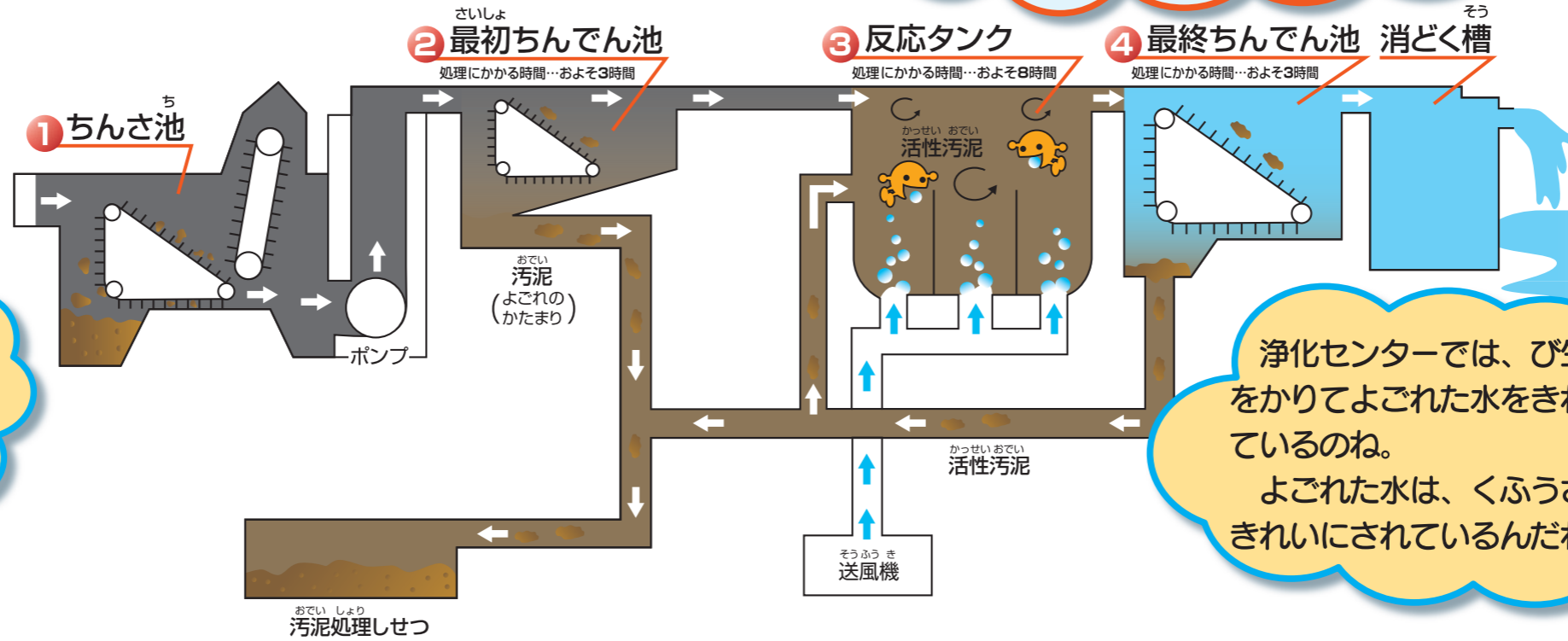
じょう か

浄化センターのしくみ

浄化センターでは、よごれた水をどのようにしてきれいにしているのでしょうか。



よごれた水が、どのようにしてきれいな水になるのかなあ。



この最終ちんでん池までで、よごれのほとんど(90パーセント以上)は、取りのぞかれます。最終ちんでん池の上ずみ水は、薬品で消どくし、安全にしてから川や海に流しています。また、一部の水は再利用されています。



浄化センターでは、び生物の力をかりてよごれた水をきれいにしているのね。よごれた水は、くふうされたしせつできれいにされているんだわ。



① ちんさ池



ここでは、砂などを底にしずめたり、浮いている大きなごみを取りのぞいたりします。(日明浄化センター)

② 最初ちんでん池



この池では、よごれた水をゆっくり流してしずみやすいものを底にしずめて取りのぞきます。よごれた水のおいがまわりに広がらないようにふたをしています。(日明浄化センター)

③ 反応タンク



ここでは、活性汚泥の中のび生物が、空気のかかりて水のおよれをどんどん食べて、重いかたまりになっていきます。(日明浄化センター)

④ 最終ちんでん池

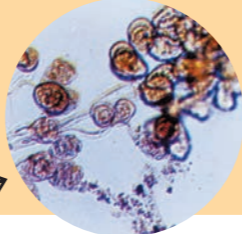


反応タンクで重いかたまりになった活性汚泥は、この池でしずめられます。しずんだ活性汚泥は、ポンプで、ふたたび反応タンクに送られます。(日明浄化センター)

「活性汚泥」ってなに

よごれを食べて水をきれいにするび生物がたくさんいるおてい 汚泥のことを「活性汚泥」と言います。

ツリガネムシの仲間(活性汚泥の中のび生物の1つ) →



★指導上の留意点★

汚れた水がきれいになる仕組みを大まかに理解できるように指導してください。難しい語句は、子どもの実態に応じて説明してください。浄化センターでは、よごれた水を、およそ14時間できれいな水にします。90パーセントとは100のうちの90にあたる量であるという、割合についての補足をしてください。浄化センターで処理された水の再利用方法については、49ページに掲載しています。